



# 会報

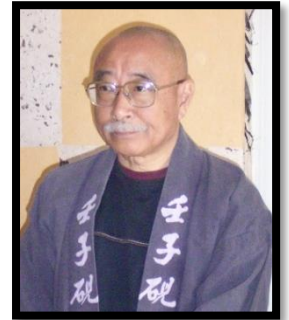
会報 第17号 (最終号)

令和6年8月発行

## 訃報

# 内藤恒雄 駿河半紙技術研究会会長

駿河半紙技術研究会会長 内藤恒雄氏が令和6年(2024年)4月15日膵臓ガンのため、逝去されました。享年77歳でした。4月16日火葬(富士宮聖苑)、5月19日葬儀及び49日法要(東京上野西照寺)が執り行われました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



### ◎ 内藤会長の長男の吉川 由 様からの御連絡

#### ▼ 葬儀の様子

4月15日に父・内藤恒雄が亡くなり、5月19日、父の実家である東京上野西照寺にて葬儀、49日法要を執り行いました。

生前お世話になった皆様には、心より感謝申し上げます。

父は、手漉き和紙を啓蒙していく活動を志していたようですが、道半ばで、旅立ってしまいました。今後は父の残した柚野手漉き工房を後世に残せるように、皆さまのお知恵をお借りしながら模索中です。

また、勝手ながら香典のご厚志につきましては辞退させていただいております。何卒、ご理解賜りますようお願い申し上げます。略儀ながら書中をもちましてお礼とお詫びを申し上げます。

#### ▼ 父、内藤恒雄の夢について

父、内藤恒雄は、病床においても、和紙の勉強を続けなくてはならないと、最後まで、和紙に対する情熱を持ち続けていました。日本が世界に誇れる手漉き和紙文化の啓蒙、継承が、内藤恒雄の、生涯をかけた夢だったと思います。

以下、会報、講演からの抜粋になりますが、父が生前語った、手漉き和紙に対する思いです。

#### 「会報 第7号 平成27年4月発行」より

今はまだ、毎年、紙の注文があり、それを捌くだけの気力も体力もあるが、いつまで元気でいられる保障はない。もし体調を崩して紙を作れなくなっても、啓蒙活動は続けるつもりである。そのために、元気なうちに「記念館」として手漉き和紙の技術を後世に残す一助としたい。これについては、観光施設としてだけでなく、あくまで文化的価値のある施設にこだわりたいと考えている。

#### 「平成12年(2000年)のドイツでの手漉き和紙啓蒙活動を振り返って」

これからも世界の国々に、日本独自で世界に誇れる手仕事としての手漉き和紙を紹介していければと、願っています。



西照寺 (表玄関)



西照寺 (本堂)

## ▼ お墓参りについて

遺骨は、父の実家である東京・上野・西照寺の納骨堂に納めました。

西照寺概要を下記の通りご案内申し上げます。

所在地：〒110-0015 東京都台東区東上野 6-2-4

連絡先：TEL 03-3841-2217 FAX 03-3841-9896

交通のご案内：JR「上野駅」より徒歩 10 分

東京メトロ銀座線「稲荷町駅」より徒歩 1 分

つくばエクスプレス線・都営大江戸線「新御徒町駅」から徒歩 9 分

開門時間：3 月～10 月…8～17 時 11 月～2 月…8～16 時

お近くにお越しの際には、故人を偲び、お墓参りをしていただければ幸いに存じます。

## ○ 全国手漉き和紙青年の集い・京都大会

2024 年 8 月 3 日～4 日に、京都市文化博物館別館で開催された全国手漉き和紙青年の集い・京都大会に私、吉川由と、私の長男、吉川聡一郎の 2 名が参加してまいりました。120 名を超える方が参加し、2 日間の講演とワークショップが開催されました。

3 日の夜には、からすま京都ホテルで開かれた懇親会に参加させていただき、父と親交のあった方々、ご挨拶をさせていただくことができました。講演では、駿河半紙技術研究会副会長、増田勝彦先生による「紙漉きが忘れた技術—複数漉簾の技—」について、お話しを伺いました。



全国手漉き和紙青年の  
集い・京都大会

## ○ その他、伝達事項

・6 月 15 日に静岡に帰省し、柚野にも訪問してまいりました。駿河半紙技術研究会の吉田美幸さまにもお会いし、お話しをさせていただきました

・6 月 20 日に、東京で開催されていた、『手漉き紙四人展 2024』に訪問してまいりました。父と交流のある方に、ご挨拶をさせていただきました

## ◎ 内藤会長の長女の吉川 静香 様からの御連絡

生前父がお世話になりましたことを心から厚く御礼申し上げます。

お忙しい中、お見舞い、火葬、ご葬儀にご参列いただき、感謝申し上げます。

健康だと思っていた父の突然の逝去に、びっくりしております。

5 月 20 日 富士宮市役所観光課の方が 3 名で工房の視察に。

富士宮市産業振興部観光課 小川貴士様、渡井一信様、同市教育委員会事務局学芸員の松本将太様  
富士宮市で管理することは難しいが、活用出来ればとのこと。

4 ヶ月経ち、様々な事務手続きは、終わり、今は工房の片付けなどを行っています。

電話やネットなどは契約を解除し、私宛(静岡市蒲原)にしてありますので、ご縁のあった方や、問い合わせ(お酒のラベル・手すき和紙体験・和紙の購入・高校からの問い合わせ等)いただいております。

出来る範囲で皆様のご要望に対応できればと思っています。

父が生涯をかけて築き上げ守ってきた工房ですので、そのまま活用できる方向を模索しており、有志の方で、紙すきを開催していただいています。  
まずは、1年間お試しで、ご利用いただく予定です。

7月にアーツカウンシルしずおかに相談に行ったところ、まずは在庫管理が必要だと教えていただき、秋以降に行います。

父の和紙を使った作品(絵画・書)を、蒲原の味処 よし川にて展示しています。  
お越しの際は、ご連絡お願いします。

静岡市清水区蒲原 3-5-18

蒲原の味処 よし川 吉川 054-385-2524

unagiyoshikawa@gmail.com

### ◎ 駿河半紙技術研究会会員の吉田 美幸 様からの報告

#### 紙漉技術研修会 2024

7月10日(水)～14日(土)にかけて、紙漉、圧搾、板貼り、板干しの工程を行いました。  
天候が悪かった為、板貼り後1週間後の板干しとなりましたが紙は剥がれずに無事に乾燥することができました。

今回の参加者は7名入れ替わり立ち替わりの参加になりましたが、先生が残された原料を使わせて頂き、皆さんに板貼りまで経験してもらえたのはとても良かったです。

冬には原料の準備から、干すまでの全ての作業を皆さんに経験してもらう予定にしております。  
紙漉とは漉くことももちろんですが、全ての作業ができてやっと紙ができるので、技術研究会の皆さんにも先生に教えてもらったことを伝えられたらなと思っています。

お問合せ先：mayb6.21@gmail.com (吉田 美幸)







2024(令和6)年4月16日永眠 享年77歳(没年76歳)

### 小室直義

「内藤さんが亡くなりました」、駿河半紙技術研究会の初代事務局長を勤めた小川貴士さんからの知らせに驚愕したのが4月16日。

驚きながらも和紙道50年余、76才であってもさらなる和紙を求め続けてきた生きざまに只々敬意の思いを馳せました。

内藤さんとの出会いが何時何処でどの様にであったかは全く定かではありません。

でも内藤さんの略歴を改めて拝見すると私のお付き合い歴は30年を超えていると思います。

振り返ると内藤さんと私とはベクトルも波長も違っているようだったが妙にウマが合っている思いをしていました。

共通点は昭和23年生まれの団塊世代そして全共闘を知っているということでしょうか。

そして和紙を通じての思い出は数々。

中でも一番の思い出は手漉き和紙による富士宮市立白糸小学校『卒業証書作り』

私の発案で内藤さんへの無理強いそして白糸小PTAへの資金協力願いで始まったものであります。

市長になってまちづくりのテーマに「食」と「地域の歴史文化」をおきました。

「食」はフードバレー構想となり「地域の歴史文化」の具体的なものとして白糸滝文化村構想としました。

江戸時代白糸村では殖産産業として三桮作りが大変盛んだったことに思いを寄せ、三桮の植栽そしてその三桮を活用して和紙作り。

和紙作りは内藤さんの存在無くしては考えられないことでした。

そしてその和紙を富士宮市の児童生徒の卒業証書として児童生徒に歴史と文化を体感してもらう。

で、まずは地元の白糸小学校からという発案でした。

市内の全児童生徒にという夢は果たせませんでした白糸小学校で今日まで続けられたこと、内藤さん始めPTAの方々に改めて感謝の思いです。

思いでの二としては「駿河半紙技術研究会」(平成19年5月)の発足のことです。

当時の富士宮市観光協会々長宮崎善且さんが地域文化の目印である内藤さんの和紙作りを市がバックアップすべきだ、との強い勧めから始まったことと思っています。

そんな宮崎会長と私の思いを受け止めてくれて会の立ち上げ事務局役をボランティアで担ってくれたのが富士宮市役所職員の渡井一信さんと小川貴士さんでした。

会は順調に出発しその後は内藤さん自身で会長・事務局を勤められてこられました。

今年も会の総会予定を聞かされていましたが・・・

駿河半紙への思いを合掌して内藤さんを悼みます。

小室直義



富士宮市立白糸小学校  
卒業証書作り①



富士宮市立白糸小学校  
卒業証書作り②

## 渡井 一信

「手漉和紙は産業ではなく文化だ」と言い続けてきた内藤恒雄さんが亡くなったと聞き、それまでの病気のことなど存じ上げない私にはあまりにも突然で、ただただ茫然としているところでもあります。

内藤さんといえば、平成6年(1994)の天皇皇后(現上皇皇后)両陛下静岡行幸啓の折、両陛下に手漉和紙を買い上げていただき、その後、皇后陛下から注文いただいたことや、平成15年(2003)10月25～29日に静岡県内各地で開催された第58回国体「わかふじ国体」秋季国体の賞状用紙として、内藤さん手漉きの和紙が使われたことなどにより、その存在は周知のものがしたが、このころはまだ顔見知り程度の付き合いでした。

内藤さんと親しくさせていただくようになったのは、平成18年2月18日～28日に富士宮市教育委員会文化課が主催した「富士宮の和紙と芸術」展からだ記憶しています。この時、初日に行われたパネルディスカッションに内藤さんがパネラーとして、私がコーディネーターとしてご一緒してからです。

この時、パネラーとして参加いただいたのは、若林淳之(静岡大学名誉教授)・五十嵐久美(元「紙の博物館」学芸員)・宍倉佐敏(富士技術センター職員/女子美大講師)・宇佐美欣也(「後藤清吉郎」三樹会代表)・小室直義富士宮市長と内藤恒雄さんの六名でした。いずれも各分野において一家言持つ錚錚たるメンバーの中、内藤さんは手漉き和紙と原料としての三極の特性、重要性を職人の目を通して訴えかけられました。その後の「駿河半紙技術研究会」立ち上げのきっかけになったのではないかと思います。

「富士宮の和紙と芸術」展から一年後の平成19年5月、内藤恒雄さんを会長として「駿河半紙技術研究会」が設立されまし

た。私は会発起人の一人として理事・監事を仰せ付けられ末席を汚すこととなりました。

この研究会の目的は、駿河半紙の生産地としての歴史を正しく理解し、手漉き和紙が作られる各工程を正確に伝える技術の研鑽をとおして、後継者の育成と地域文化の創造に資するというもので、活動内容として(1) 駿河半紙に関する研究及び手漉き技術の保存に関すること(2) 手漉き技術伝承者の技能の熟達並びに後継者の育成及び奨励に関すること(3) 講演会、講座等の開催、等々で、内藤さんの工房では年数回の実技講習会や白糸小学校卒業証書づくりなどが行われました。さらには、狩宿さくらまつりをはじめとする各種イベントでの体験学習など数多くの皆様に手漉き和紙の魅力を伝えました。

さらに、平成26・27年度には「富士山を詠む文学館」事業として、内藤さんオリジナルの「不二の紙」タペストリー50本を製作いただき、「富士山を詠む俳句」の俳画を嵌め込み展示することにご協力をいただきました。これは移動展示に大変効果的で、作成当初は富士宮市内各商店街や休暇村富士などにおいて順次展示したものです。

こうした活動に対して、駿河半紙技術研究会は、平成28年度「第30回ふじのくに地域文化活動奨励賞」を受賞しています。

また、総会時に行われる記念講演では、令和4年度に「45年間 富士宮市文化行政に関わって」と題して、会員の皆様の前でお話をさせていただきました。増田勝彦昭和女子大学教授、関出東京藝術大学名誉教授など、和紙関連のエキスパートの中での講演は大変名誉なことでした。こういう場を与えていただいた内藤さんに深く感謝申し上げます。

半世紀余に及ぶ、手漉き和紙の技術継承という伝統文化の保存にかかわる多大な貢献に、感謝の意を表します。内藤恒雄さんありがとうございました。

渡井 一信

## 小川 貴士

内藤会長の訃報を耳にし、もう4カ月が過ぎました。昨年11月にお会いした際には、韓国で開催された東アジア紙文化特別展に参加されたことをお話ししてくださり、いつもと変わらずお元気な姿を拝見したばかりでしたので、こんなにも早くお別れの日が来るとは思っていませんでした。本日は、思い出と感謝の気持ちをここに書かせていただき、追悼とさせていただきます。

私が内藤会長と初めてお会いしたのは、平成17年でした。

当時の富士宮市長の提案もあり、和紙の原料である三椏の計画栽培発祥の地とされる白糸地区において、小学生の卒業証書を手漉き和紙で作れないだろうかとの相談に伺ったのがきっかけです。

和紙の知識がほとんどない私に、原料のこと、道具のこと、技術のことなど、一から詳しく説明してくださいましたが、「卒業証書を和紙で作るなんて無理かな…」と半ば諦めの気持ちで帰路に就いたことを覚えています。ところが、後日内藤さんから「自分でよければお手伝いさせていただきます。」とのお返事をいただき、構想が一気に現実のものとして動き出したものです。

その後昨年度までの19年間に渡りずっとこの事業を引き受けてくださったおかげで、多くの白糸小卒業生が和紙の卒業証書を手にすることができましたこと、本当に感謝しています。

以降、駿河半紙技術研究会の立ち上げや実技研修、文化講演会の開催など、内藤会長とご一緒させていただくことが多かったこともあり、今改めて思い返すと、様々なシーンが目に見えてきます。

内藤会長は、「縁」という言葉をよく使われていました。

世界に誇れるような日本独自の手仕事をしたいという思いから手漉き和紙に辿り着

いたことも「縁」。霊峰富士の見える土地で仕事をしたかったから柚野に工房を構えたのも「縁」。

今私も、内藤会長に出会えた「縁」に感謝しつつ、内藤会長のご冥福を心からお祈りいたします。

小川 貴士

## 閑出 (せきいずる)

2024年4月15日早朝に、「内藤先生が6日に病院へ救急搬送され、切迫した厳しい状況です。」との急報を、内藤さんにとって愛弟子の吉田美幸さんから受け、驚きとともに目の前が暗く沈みました。その数時間後には訃報が届き、私はただただ狼狽えるばかりで、翌16日には富士宮聖苑(静岡・富士宮市)にて荼毘に付される亡骸に、わずかな言葉をお掛けするだけの悲しいお見送りとなりました。そして、5月19日には所縁の西照寺(東京・台東区)にて、ご葬儀・納骨式がしめやかに営まれ、参列させていただきました。以降、月日の経過は早いのですが、哀惜の思いはつるばかりです。

内藤さんと直接に知り合う前の事ですが、(私事ながら)大学に在職中に「絵画制作(日本画)に用いる素材・用具類の調査研究」の一環として、楮・三椏・雁皮・梶の木・桑などの抄紙素材や、糊空木・銀梅草などの抄紙助剤、および天然染料とする各種草木を、第二校地(茨城県取手市)の構内にて植栽し、それらを画学生への実物教材とした「絵画組成の素材ゼミ」を行っておりました。また、研究室の助手や院生とともに、各地「手漉き和紙工房」の現場を訪れて、和紙の使い手の立場から、諸々学ばせていただきました。

文房四宝(筆・硯・紙・墨)、絵具(顔料・染料)、膠など、日本画制作に用いる伝来の用具・用材の需給実態への危惧が相当以前から深まり、其々に優れた質を維持する社会的環境や諸条件がますます厳しくなっております。生業として後世へ向けて継続するには諸事難渋し、



理念があっても困難な状況が強まる傾向にあります。そのような時代の流れを現実として知る者の一人として、駿河半紙技術研究会(2007年設立)の存在に注目し、内藤さんのご尽力の程も聞き及び、心を寄せておりました。

思い立って2015年春に、富士宮市上柚野の内藤さんの工房へ初めてお伺いいたしました。事前のご連絡もせず突然の訪問で、きっとお困りの状況であったと推察いたしますが、ご対応下さり、感謝いたしました。今も印象深く思い出します。

内藤さんが永眠される一か月前の3月18日には以下のようにメールが届いておりました。「此度、会費のご送金有難うございます。国産みつまた白皮の精製具合が年々悪く、キズヨリ作業に苦心しております。駿河半紙技術研究会会長内藤恒雄」

爾来、駿河半紙技術研究会に参加させていただき、来歴に富む生産地域での連携や普及活動に励まれるお話なども伺い、何かと親密にご指導賜りました。

内藤さんが本拠とされた富士宮市上柚野の、霊峰富士を間近に望む工房にて(優れた水質の伏流水を用いることや、枋材の干板にて天日干しとすることも含め)、丹念に漉かれた各種和紙は、私の画室(神奈川・鎌倉市)に今もあります。

此の程、改めて手に取れば、存在感あふれる匠の姿が目に見え、声が聞こえてきます。

内藤恒雄さんの御冥福を心からお祈りいたします。

#### 関 出 (せきいずる)



2016.5.14.  
田貫湖畔にて



干板(枋材)で  
天日干しする内藤さん

## 吉田 美幸

「僕は、弟子はもう取らないんだよ」そう言われたのは2018年の秋のことでした。

私は「ホンモノ」の職人を探して、いろいろな工房を見学して回っている時に、やっと内藤先生に出会えた時は嬉しくてしょうがありませんでした。

「この人だ！」芯のある紙への考えと実践。内藤先生の元で学びたいと強く感じるものがあり、お願いしました。「面倒くさいから嫌だ」と弟子入りは断られましたがその後駿河半紙技術研究会の入会を進めてもらい、翌年から毎年夏の合宿修行をご用意してくださり、感謝しかありません。

時代の流れに合わせようとする方が多い中、内藤先生はご自分の和紙と向き合い、ご自身で販路を開くことを課し、頑なに“内藤恒雄の和紙”を貫いた方だと思います。

鉄板は決して使わない。チリより(ゴミとり)は漉く人間が自分でやるべき。

とにかく頑固で、「先人の人たちがやってきたことだからってバカみたいに従っても仕方がない。自分で納得するやり方を見つけることが大事だ。」

時に辛口に物事を批判しながら、しっかりとご自身の主張を通すところは本当に尊敬します。その実直さは紙漉だけではなく、町内の区長さんになられた時もそうでした。そう、内藤先生は事柄を選ばずに自分の感じたことをしっかりと通される。そんな強い人だからこそ、内藤先生の紙、あの美しい和紙を生涯通して漉き続けられたのかと思います。

ある夏の技術研究会の時に、いつものように並んで先生とチリよりをしていた時です。突然先生が「周りのことは気にしないでいい。自分の感じたことを信じてやりなさい。」と言われたことがありました。

突然のことだったので驚きましたが、今は先生の言葉が強く強く響いています。

自分を信じるのが何より大事なことを生き様で教えてくださった先生。

先生の紙はこれからも、何百年、もしかしたら何千年と生き続けることでしょう。

先生に「吉田美幸の紙を見つけなさい」と言われました。先生が大切にされた紙の風合いを大切に芯のある頑な私の紙を見つけていきたいと思えます。

内藤先生、ありがとうございました。

吉田 美幸

## 小淵 真巳

春先に会報と一緒に送られてくる狩宿さくらまつりの案内を、「今年はさくらまつりの手すき和紙体験に顔を出せるかな」と見ていた矢先、突然の内藤会長の訃報を聞き、本当に驚きました。

私が内藤会長と初めてお会いしたのは、2018年8月のことでした。書道を通して和紙に興味を持ちはじめた頃、近くに紙すきの工房があると知り、会長に直接お会いしたいと思い、工房を訪ねました。突然の訪問にも関わらず、会長は快く時間を割いてくださり、柚野で和紙を漉くようになった経緯や柚野和紙への熱い思いを聞かせてくださいました。そのお話は、今でも鮮明に覚えています。この出会いによって、私は手漉き和紙の世界に深く惹き込まれ、駿河半紙技術研究会に入会することを決意しました。

その後、実技研修会やさくらまつりなど、さまざまな機会で会長と交流させていただきました。特に印象に残っているのは、昼休憩中に会長が私の仕事に関する新聞記事の切り抜きを見せてくださったことです。わざわざ準備してくださっていたことに心から感謝しています。そのおかげで、楽しい昼食の時間を過ごすことができました。

会長との出会いは、私にとってかけがえのない経験となりました。会長の温かいご指導と励ましに心から感謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

小淵 真巳

## 尾崎 政志

天日干しした駿河半紙を、干板から剥がした時のあの独特な香りを、今でも時々、思い出します。

私が内藤会長に初めてお会いしたのは、今から17年前の2007年5月、三島で催された内藤さんの展示会でした。そのころ、私は書道を学んでいました。通っていた書道教室では2年ごとに社中展が開催され、私も2度、作品を出展していました。書道作品の制作はとても楽しく、興味深いものでした。色々調べているうちに、和紙に注目するようになりました。ネットで検索すると偶然にも三島の展示会がヒットし、内藤さんに出会うことができました。その時、『駿河半紙技術研究会』の設立を知り、参加を即決しました。

ほどなくして、最初の実技講習会がありました。『見るとやるとでは大違い』とはこのことか!と思えました。自分の不器用さと、内藤さんの流れるような一連の所作との“次元の違い”に愕然としたことを覚えています。私のような不甲斐ない研究会の一期生に、さぞかし内藤さんは落胆されたと思います。その後、何回か実技講習会を受けましたが、大きな紙を安定して漉くことができませんでした。内藤さんに相談して、社中展には、はがきサイズの和紙を使用することにしました。内藤さんにはお忙しい中、沼津の展示会場までもご足労いただき感謝しています。作品は意外と好評で、とても嬉しかったです。

内藤さんには、このようにたくさん助けて頂いたのですが、今でも内藤さんに申し訳なかったと、思うことがあります。それは、この会の目的が、『手漉き和紙の技術継承』だったのに、私の目的は、自分の作品作りのためだったからです。今から思うと、内藤さんの技術を盗めるくらい、内藤さんの所作をじっくり観察・研究するべきだったと後悔しています。



内藤さんは人生を賭けて、和紙の素晴らしさや自分の技術を、多くの人に広めたいと悪戦苦闘されてきたと思います。しかし、それは突然終わりを告げてしまいました。さぞかし無念だったと思いますが、内藤さんの蒔いた種は、少しずつ確実に芽吹こうとしていると思います。

心から、お疲れ様でしたと言いたいです。

尾崎 政志

## 四條 里美

今から15年ほど前、特別支援学校の教員をしていた中で1年間、高等部の「作業学習」（働くことを学ぶ授業です）の紙工班の担当になったことがあります。担当になったものの、本物に近い方法で紙すきをしていた班であったのに、頼れる先輩方はほとんどおらず、途方に暮れていました。何かないかと、薫にもすがる思いでパソコンを見ていたら、「駿河半紙技術研究会」にヒット（これをご縁といわず、何と言いましょか!?!）。とても気になるサイトで、何回も見ているうちに、どうも研究会の本部、会長様の家が隣町にあるらしい、ということがわかりました。ゴールデンウィークの最中、いてもたってもいられず、柚野の辺りを車で走っていると…見つけてしまいました。「柚野紙漉き」の看板を。そのまま恐る恐る小坂を上がってお宅へ入って行きました。後々、内藤さんから「ノーアポイントで来た（変わった？）人」と言われてしまうほど、突然の訪問でした。とはいえ、快く受け入れてくださり、「講習会があるから」とご案内までいただきました。もちろん参加。

なかなかうまく漉けず、失笑されること多数。それでも根気よくご指導いただき、何とか半紙サイズの和紙を漉けるようになりました。その後、何回か講習会に参加させていただき、漉いた紙を板に貼って乾かす作業や原料の皮を煮る作業も体験させていただきました。

また、漉いた和紙は何枚もいただきました。その和紙、手触りがよく、品の良い光沢もあり、何枚かは自分でも使ったのですが、東京で墨絵をやっている友達に差し上げたところ、ことのほか喜んで使ってくれたので、結局、残りの全部を差し上げました。

ここ数年は、講習会にも講演会にも参加できず、書面だけのやり取りでしたので、どのような状況であったかも知らざにりましたが、振り返ってみますと、私にとって、和紙に触れることができたことはとても貴重な体験であり、豊かな時間だったと思います。そんなご縁と時間をくださった内藤会長には、感謝とお礼をきちんと伝えられず、最後まで失礼な門下生でしたが、お許しを願いつつ、ご冥福をお祈りしたいと思います。

四條 里美

## 小林 智

2014年「和紙・日本の手漉き和紙技術」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。

私は仕事上建築の内装仕上げに和紙を使用することがあったので、そのニュースを知り関心が深まりました。それで、手漉き和紙の工房を探し、富士宮市上柚野にある内藤先生の工房を訪ね、駿河半紙技術研究会に入会、実技研修会に参加するようになったのです。これが先生と私の出会いです。

実技研修の作業時、内藤先生は厳しいことも言われますが、技術的なポイントを指示した後は「自分の思うようにやってみろ!」といった感じで、細かいことは口に出さない方でした。

各地で修行してご自分の工房を開き長い年月をかけ独自の紙を完成させた、そういう方だからこそ、自分の信念に基づく作品(紙)を完成させることの大切さを教えてくださっていたのではないかと感じました。

時折工房を訪ねると、「昼食でも行こうか」と、近くの馴染みのそば屋に連れて行ってくださり、プライベートな話も聞かせてく

ださいました。先生のお孫さんと私の子供の年齢が近いこともあり、よく私の子供の話を聞いてくださいました。

「今度はお酒を飲みに行きましょうよ！」と、私の行きつけの居酒屋にお連れする話もしていましたが、果たせぬままとなってしまい、とても残念です。

今年1月、富士宮市内で先生が漉いた和紙を建具に使用した建物が完成したことを知り、見学に行きその足で伺ったときには元気に話していらしたのに、もうお会いすることができないなんて、いまだに信じられません。

いつでも指導していただけたらと思っていました。もっといろいろな技術を学び、楽しくお酒も酌み交わしたかったです。

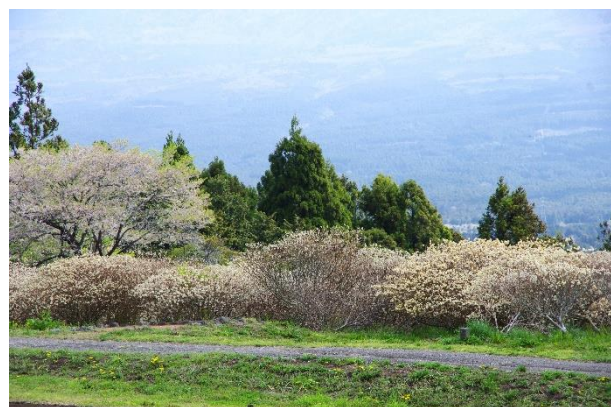
内藤先生のこれまでのご指導に心より感謝し、ご冥福をお祈りいたします。

小林 智

### 関出様よりご提供いただいた写真

16日（火葬の日）の早朝、富士宮市に到着後、富士山を臨むミツマタ畑(抄紙素材)や、附近で咲く花々を、写真に撮りました。(故人と田貫湖の湖畔で交わした会話なども思い出しつつ)。

…2024/04/16 関出 (せきいずる)





# 内藤恒雄氏の略歴

1948(昭 23)年 3月

東京に生まれる。

1969(昭 44)年 6月

大学在学中カナダに3ヶ月間旅行、この旅行を体験し「日本独自で世界に誇れる手仕事」として手すき和紙を選択する。

1970(昭 45)年 4月

埼玉、島根、岡山にて6年間手すき和紙技術を習得する。

1976(昭 51)年 5月

日本の霊峰、富士の麓で仕事をしたいという希望から、静岡県富士宮市芝川町上柚野にて独立、現在に至る。

1991(平 3)年 8月

スイス、バゼールでの国際紙会議に出席、同時にドイツにて和紙のワークショップを開催する。

1994(平 6)年 4月

天皇、皇后両陛下、静岡県行幸、啓の折、当工房の和紙をお買い上げ頂く。

1995(平 7)年 7月

皇后陛下ご下命の和紙を宮内庁にお買い上げ頂く。

1997(平 9)年 9月

静岡県富士市「ロゼシアター」にて、独立20周年記念展を開催する。

2000(平 12)年 9月

国際交流基金の助成を受けて約20日間ドイツのベルリンを訪問する。

- ベルリン国立技術博物館で計12回の手すき和紙の実演
- 日本大使館、独日協会共催の催しで手すき和紙についての講演
- ライプチ国立図書館で19世紀の和紙、バルチュコレクション調査
- ドイツ人紙漉家ガンゴルフ氏のアトリエで4日間のワークショップ開催

2001(平 13)年 10月

天皇、皇后両陛下、静岡県行幸、啓の折、当工房の和紙をお買い上げ頂く。

2002(平 14)年 9月

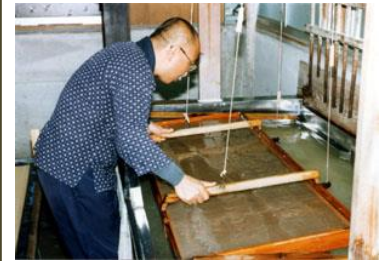
東京都台東区谷中「すぺーす小倉屋」にて独立25周年記念展を開催する。

2003(平 15)年 2月

第58回国民体育大会 NEW!!わかふじ国体の表彰状を静岡県に納める。

2003(平 15)年 10月

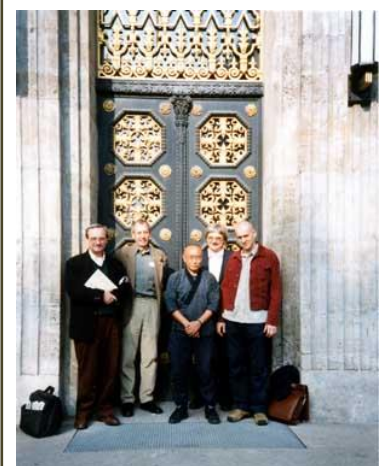
天皇、皇后両陛下 NEW!!わかふじ国体開会式にご臨席の折 当工房の和紙をお買い上げ頂く。



手漉き和紙職人になる



富士宮市芝川町で独立



2回目のドイツ訪問



ドイツで実演と講演



2006(平 18)年 6月 東京上大崎「ギャラリーU」で独立 30 周年記念展を開催する。

2007(平 19)年 5月 手漉和紙の技術伝承の為「駿河半紙技術研究会」を設立する。

2011(平 23)年 5月 静岡県三島市「みしまプラザホテル・ギャラリープラザ」にて独立 35 周年記念展を開催する。

2011(平 23)年 9月 国際交流基金、フォンダシオン・メゾン・デ・シオンス・ドゥ・ロム(フランス人文科学研究所)、ルーブル美術館等の助成を受け7日間フランス・パリ・アングレームを訪問。

- ・フォンダシオン・メゾン・デ・シオンス・ドゥ・ロム(フランス人文科学研究所)にて口頭発表会。日本とフランスにおける手漉き紙の技術・日仏共同会合・プログラムにて。「手漉き和紙の特徴のひとつ、特に“打解”の工程について」ご説明。
- ・アングレーム紙博物館を訪問。
- ・17世紀から操業が続いているムーラン・デュ・ベルジェ手漉き紙工房を訪問。
- ・ルーブル美術館・紙本作品修復室を訪問。

2012(平 24)年 9月 日仏紙プロジェクト 第2年次 日本会合として、国際交流基金・在日フランス大使館・ルーブル美術館・エルメス財団等の助成を受け、フランス人6名・日本人2名・通訳1名・カメラマン1名、計10名のご参加を頂き、当工房で3日間の実技講習を行いました。

- ・みつまたの煮熟
- ・那須こうぞの打解・なぎなたビーター
- ・みつまたを使用し汲みこみによる本格的な流し漉き
- ・とろろあおいの効用
- ・みつまた紙を刷毛を使用し紙貼り・板干による天日乾燥 等

2012(平 24)年 11月 平成 24 年度 富士宮市技能功労者表彰を受賞す。

2013(平 25)年 3月 静岡県庁にて、静岡県教育委員会の推薦を受け、公益財団法人 伝統文化活性化国民協会より、平成 24 年度地域伝統文化功労者表彰を受賞す。



駿河半紙技術研究会  
設立



フランス訪問



フランスで和紙の講義



日仏紙プロジェクト



平成 24 年度地域伝統  
文化功労者表彰を受賞

2016(平 28)年 5月

独立 40 周年を記念し「柚野手漉き和紙工房」から「内藤恒雄手漉き和紙記念館」に名称変更する。

2016(平 28)年 9月

9月23日(金)～10月7日(金)まで、2014年11月「和紙・日本の手漉き和紙技術」ユネスコ無形文化遺産登録記念と内藤恒雄手漉き和紙独立40周年を記念し、ドイツ・ベルリン技術博物館の招待を受け、駿河半紙技術研究会の助成で、3回目となるドイツ・ベルリンを訪問する。ガンゴルフ・ウルブヒト氏のアトリエで2回の手漉き和紙のワークショップを開催。ベルリン日独センターで講演会と展示会を開催。ドイツ・ベルリン技術博物館で手漉き和紙の実演会を開催



2017(平 29)年 3月

「駿河半紙技術研究会」が公益財団法人 静岡県文化財団より『第30回ふじのくに地域文化活動奨励賞』を受賞

2018(平 30)年 6月

手漉き紙展事務局 尾村知子様企画 『手漉き紙四人展 2018』 於：東京日本橋 小津ギャラリー



2018(平 30)年 8月

『内藤恒雄手すき和紙展』 於：静岡市 家具屋校倉ギャラリー

2018(平 30)年 8月

『夏休み親子手漉き和紙魅力発見プロジェクト』…県内外小学生34名が参加されました。手漉き和紙の歴史・制作の説明及び、紙漉き体験（耳付き紙はがき7枚作成） 於：内藤恒雄手すき和紙記念館



2023(令 5)年 10月

『2023 東アジア文化都市 紙文化の特別展』参加 於：大韓民国全州市 財団法人 韓国伝統文化殿堂

2024(令 6)年 4月

4月15日膵臓がんのため死去

通年イベント実績  
(10年以上)

- 手漉き和紙による富士宮市立白糸小学校『卒業証書作り』19年連続
- 『狩宿さくら祭り』…一般の方を対象に「紙漉き体験」のお手伝い「手漉き和紙の制作方法」説明等。 於：富士宮市上井出「井出館」
- 手漉き和紙の技術伝承を目指した駿河半紙技術研究会の実技研修会及び総会の実施

